

印旛沼 クリーン大作戦

無事終了しました



印旛沼周辺の生態系を変える外来生物たち

印旛沼が抱える問題のひとつに外来生物の増加があげられます。外来生物とは、本来印旛沼周辺に生息していなかった生物で、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物のことをいいます。外来生物により、印旛沼周辺地域の生態系に多大な悪影響が及ぼされています。

ナガエツルノゲイトウ



ナデシコ目・ヒコ科に分類、南アメリカ原産で、北アメリカ、アジア、オセアニア、アフリカに分布している。在来種の植物と競争するほか、水面上にマット状に繁茂することで水流を停滞させる。世界中で侵略的な雑草となっている。

カミツキガメ



本来は北米から南米にかけて生息。印旛沼には捨てられて野性化したとみられている。成長したカミツキガメは凶暴で、動きはきわめてすばやい。名前のとおり噛む力が強い。

外来種の魚たち

- ・オオクチバス
- ・ブルーギル
- ・チャネルキャットフィッシュ
- ・コウライギギ
- ・オオタナゴ
- ・カダヤシ
- ・ハクレン



ハクレンの大量除去



大和田機場に大量に押し寄せた巨大なハクレン排水運搬の支障となるため、除去が必要となります

出典：WEB 魚図鑑

参考資料：印旛沼環境基金HP・雑誌いんば沼・Wikipedia

8月10日～12日の3日間、NPO法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA) が主催し、印旛沼流域水循環健全化会議の共催により、神崎川で開催された「特定外来生物 ナガエツルノゲイトウ」の駆除を行う「印旛沼クリーン大作戦」が無事終了しました。「ナガエツルノゲイトウ」は、印旛沼に流入する河川等で大きく成長し、大雨の時に印旛沼の水位を下げるためにポンプ運転中の大和田機場に群落のまま漂着し、排水障害を発生させています。また排水障害だけでなく、水田に入り込み稲作にも支障を来すなど印旛沼周辺地域にとって深刻なリスクとなっています。これらのリスク軽減のため、全国から集まってくれた約100名もの大学生たちがボランティア活動として、泥だらけ、汗だくとなって奮闘し、タミミ 1,000 畳にも及ぶ群落を駆除しました。私たちも、船を含めて参加し、学生の皆さんと駆除活動や交流を行いました。しかし、このリスクは一朝一夕に解消できる課題ではなく、将来にわたっての継続的な駆除が必要と考えています。印旛沼周辺地域の方々から自らのリスクとして理解を深めていただくと共に、地域活動として少しでも輪が広がれば大変ありがたいことです。なお、この駆除活動は来年も開催される予定です。



2017年は、
カスリーン台風から70年

千葉県の水がめ印旛沼を守り、洪水被害から地域を守ります

(独)水資源機構 千葉用水総合管理所

住所：千葉県八千代市村上3139
TEL：047-483-0722
E-mail：chiba_kouhou@water.go.jp
ホームページ：http://water.go.jp/kanto/chiba/index.html

